

中学校区におけるめざす子ども像 健やかに成長する児童・生徒 表現力豊かな児童・生徒	
令和7年度 重点目標 対話を通じて、人の思いや考えを理解できる子どもを全教職員で育てる ～評価の工夫を通じて～	

<p>確かな学びの現状</p> <p>本校の全体的な実態として、学習に課題のある児童が多い。その課題とは、知識・技能面であったり、意欲面であったり様々である。その中でも「既習事項の定着が不十分(知識・技能面)で、授業に参加する気が起きない(意欲面)」児童が多い。また、別の課題として、自分の思いや考えを相手にうまく伝えることができず、トラブルに発展することがある。これらのことから、今年度も、子ども全員が意欲的に取り組むことができる授業づくりや、「対話」と「評価の工夫」を行っている。学習指導の重点目標を「人の思いや考えを理解できる子の育成～『対話』と『評価の工夫』を通じて～」とし、子ども一人ひとりが人の思いや考えを理解できる子の育成に取り組む。特に「対話」の部分では、「聴く力」の育成に力を入れ、「評価」の部分では、次のアクションへつなげる評価の在り方を研究する。授業での学びを学校生活や日常生活で生かしたり、子どもが実際に学習してきたことを子ども自らが進んで活用することができる場を設定していけるようにしたい。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状</p> <p>本校は児童数の割に運動場が狭く、休み時間だけでは満足に体を動かす時間を確保しにくい現状にある。今年度も体育授業で計画的にいろいろな種目に取り組めるように配慮するとともに、委員会活動を通して体力向上への取り組みや運動への動機づけを行っている。</p> <p>早寝・早起き・朝ごはんの基本的な生活習慣が身に付いていない児童も多く、家庭への啓発が必要である。生活リズム調べを行い、課題の改善に努める。大規模校であり、生活環境の違いから多様な成長段階の児童がみられるが、その多様性を活かして「ちがいを認める」ことができるように生活のあらゆる場面で見逃すことなく指導を徹底していく。いじめ・不登校などに対して、個々の事案への対応だけでなく、各学級・学年による予防指導と、素早い組織的な指導を進めていく。</p>
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	学習習慣の定着	豊かな言葉と確かな計算力を身につけることができる。(学力向上)	【教員アンケート】 「言葉の力や計算の力をのばすための取り組みをしている。」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「言葉の力や計算の力をのばす学習をしている。」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率95%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率85%⇒B ・ドリルワークや、プリントなどで基礎学力向上の取り組みを行ったり、「言葉の宝箱」を活用して、語彙を増やす取り組みを行ったりしている。	教員アンケート結果 肯定率97%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率82%⇒B ○・ドリルワーク、プリント、「言葉の宝箱」の活用により、基礎学力の向上を図った。 ・ICTを活用し、意見を書き表しながら同時進行で友達のことを参照させ、多様な言葉や表現を学ばせた。	◎	近年、文字離れが進んできているということが報道されている。ICTの活用で、タブレットに慣れることは大切だが、実際に文字を書くこと、本を読むことの取り組みを続けてほしい。特に、学校図書館を利用し、これからの子どもたちが楽しく本に触れることができる場を設定してほしい。	
	校内研修の充実	「人の思いや考えを理解できる子ども」の育成に向けて、「対話」と「評価の工夫」を視点に授業研究を行う。(研修)	【教員アンケート】 「授業において、対話を活性化させる取り組みを行ったり、子どもたちのモチベーションを上げるような評価を行ったりしている」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「授業で、自分自身でよく考えたり、友だちと話し合えてよく考えたりしている」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率95%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率91%⇒A ・「対話」と「評価」をテーマに研究授業及び協議会を行っている。また、日々の取り組みについて話し合ったり、その成果と課題を毎月データにまとめ共有したりしている。	◎教員アンケート結果 肯定率97%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率92%⇒A ・「対話」と「評価」をテーマに研究授業及び協議会を行った。1年間の実践事例を「日々行うべきこと」「動機づけの工夫」「より深めるための工夫」などに整理され、次年度へと引き継ぐことができた。	◎	昔の授業とは違って、座って話を聞いているだけではなく、先生や友だちと交流、対話を深めながら授業を行っている様子が見られた。友だちと話をすることで話してわかることがある。今後も取り組みを続けてほしい。	
	情報ツールの活用	自分の思いや考えをICTを使って表現することができる(ICT)	【教員アンケート】 「児童がICT(タブレットなど)を使って、自分の思いや考えを表現できるように、指導をしている」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「タブレットを使って自分の考えをあらわすことができる」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率71%⇒B 子どもアンケート結果 肯定率82%⇒B ・ICTの研修を夏季研修で行い、授業で活用できるようになっている。また、ICTの活用事例について適宜学年会で共有している。	○教員アンケート結果 肯定率77%⇒B 子どもアンケート結果 肯定率84%⇒B ・ICTの研修を複数回行い、授業で活用できるようにした。 ・ICTの活用事例を学校全体で共有し、スカイメニュー・Tomas・コラボノートなど様々なアプリを用いて授業に取り組んだ。	◎	1年生からタブレットを使い、授業をしている様子が見られた。自分でログインし、練習問題を行っている様子など。子どもたちが楽しんで、自分から進んでタブレットを使い、調べ学習を行うことや、練習問題に取り組むことは良いことと感じる。	
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	いじめ・不登校の予防的対策に取り組む。(生指)	【教員アンケート】 「日々の授業の中で、子どものわずかな変化を見逃さないようにし、対応すべき事態があれば、職員同士で情報を共有する」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「学校に行くのは楽しい」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率100%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率85%⇒B ・月に1回、職員全体で生徒指導報告会を行い、情報を共有し、必要に応じて対策委員会などを開いている。	○教員アンケート結果 肯定率100%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率87%⇒B ・交換授業を行い、いろいろな先生を目で児童を見守ることで、わずかな変化も見逃さないようにできた。 ・毎週の学年会と毎月の生徒指導報告会で児童の様子を共有し、必要に応じて対策委員会を開いた。	○	3年生で、教科担任による授業と、算数の習熟度別で授業が行われたと聞いた。多くの先生が児童に関わってくれることはとても良い取り組みと感じる。発達段階もあると思うが、これからも、できるだけ多くの先生が児童に関わってほしいような取り組みを行ってほしい。	
		「あいさつ」ができ、豊かな人間関係を築くことができる子を育てる。(生指)	・全職員が児童に日々声掛けし、児童に常に意識させる。 ・朝礼や委員会などで、啓発する。	【教員アンケート】 「あいさつの大切さを教えたり、あいさつをするように指導したりしている」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「あいさつの大切がわかり、毎日、先生や友だちにあいさつをしている」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率98%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率87%⇒B ・朝礼や各クラスであいさつの大切さについて指導を行っている。毎日下校時に各学年1人以上、昇降口であいさつを行っている。	○教員アンケート結果 肯定率95%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率88%⇒B ・朝礼や各クラスであいさつの大切さについて指導を行った。毎日下校時に各学年1人以上、昇降口であいさつを行った。委員会の児童とともに、挨拶運動などあいさつを増やす取り組みを考えた実践した。	○	あいさつは、基本的なことではあるが、とても大切なこと。最近、見守り隊の方からも、大きな声であいさつしてくれる児童が増えたと聞いている。気持ちの良いあいさつが増えるよう、これからも啓発してほしい。
		「帽子」「名札着用」ができ、安全に気をつけたり、コミュニケーションを円滑にしたりするだけでなく、規範意識のある子を育てる。(生指)	・全職員が児童に日々声掛けし、児童に常に意識させる。 ・朝礼や委員会などで、啓発する。	【教員アンケート】 「帽子・名札を着用するように指導している」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「登下校や、体育、外遊びのときは、帽子をかぶり、学校で過ごす時間は名札を胸につけている」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率98%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率91%⇒A ・朝礼や各クラスで帽子や名札着用等ルールを守ることを大切さについて指導を行っている。毎日下校時に各学年1人以上、帽子着用について声掛けを行っている。	◎教員アンケート結果 肯定率98%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率91%⇒A ・朝礼や各クラスで帽子や名札着用等ルールを守ることを大切さについて指導を行った。毎日下校時に各学年1人以上、帽子着用について声掛けを行った。委員会の児童とともに、呼びかけなど着用を促す取り組みを考えた実践した。	◎	帽子や名札を子どもたちが呼びかけられることはいいこと。その他、高学年の児童会役員が先生とともにルールの見直しを行ったと聞いた。児童の考えを取り入れた取り組みは、児童の自主性にもつながると感じる。児童を巻き込んだ取り組みを継続してほしい。
	健康で丈夫な体作り	ありのままの自分や友だちのことを知り、お互いを認め合い、自分や友だちを大切に、助け合うことができる。(人権)	学校全体で自分のことを知るための「自分マップ」を行い、「つながりのわ」など人とのつながりを意識した教育活動を展開する。	【教員アンケート】 「自分マップ」「つながりのわ」等の取り組みなど、児童が自分のことを知るための取り組みや児童同士がつながる手だてを行っている。」という教員が90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「自分や友だちのいいところを知っている。」「自分や友だちを大切に、助け合うことができる。」「という児童が90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率88%⇒B 子どもアンケート結果 肯定率92%⇒A ・全クラスで「自分マップ」「つながりのわ」の取り組みなどを通して、児童が自他のことより良い関わり方を知るための手立立てを行っている。	○教員アンケート結果 肯定率88%⇒B 子どもアンケート結果 肯定率92%⇒A ・全クラスで「自分マップ」「つながりのわ」の取り組みや児童同士がつながる手立立てを行った。1学期と比べ、自分や友だちのよさを知り、助け合える児童が増えた。	○	昔は、自分ひとりで勉強するというスタイルだった。近年では、授業を参観した時には友だちと相談する時間があったり、グループで活動したりする時間がある授業が増えていると感じる。友だちとつながることで、いろいろな視点が増え、わかることも増えると感じる。
		カリキュラムマネジメントに基づいた道徳の授業の充実を図る。(道徳)	カリキュラムマネジメントに基づいて道徳の指導計画を立てる。授業参観で道徳の授業を行う。交換道徳を行う。	【教員アンケート】 「カリキュラムマネジメントに基づいて道徳の指導を行った。」という教員が90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「道徳の授業では、友だちの考えを聞き、自分の考えをもったり広げたりすることができた。」という児童が90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率86%⇒B 子どもアンケート結果 肯定率87%⇒B ・月に1回行事やカリキュラムを見直し、関連する価値について考える時間を設けている。年に1回以上、交換道徳を実施している。	○教員アンケート結果 肯定率86%⇒B 子どもアンケート結果 肯定率87%⇒B ・年間計画に基づき、全学年で道徳の授業実施をしている。 ・参観で保護者に啓発したり、交換道徳の授業をするなどで、道徳教育の価値を多角的に広げている。	○	道徳の授業はとても大切だと感じる。道徳を楽しみにしている子どもも多いと聞いた。自分の考えを発表するだけでなく、友だちの考えを聞くことでわかることも多い。多くの考えを学んでほしい。
		サポート委員会、ケース会議を活用し、支援が必要な児童に対して適切なサポートを考える。(支援)	支援が必要な児童に対して適切なサポートを考える。	【教員アンケート】 「サポート委員会・ケース会議を活用し、支援が必要な児童の情報を共有しながら、対策を図っている。」の項目が90%以上でA、60%以下でCとする。	・教員アンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率93%⇒A ・毎月サポート委員会、随時ケース会議を行い、支援が必要な児童について対策を図っている。	◎教員アンケート結果 肯定率93%⇒A ・サポート委員会、ケース会議を行い、支援が必要な児童の情報を共有しながら、対策を図り、支援が必要な児童に対して適切なサポートを行うことができた。 ・SSWと連携して児童の特性と対応を協議したり、リソースルームを活用したりすることで、子どもたちの居場所づくりを行うことができた。	◎	困っている子どもに対し、支援を行うことは必要なこと。この会議で、サポートを考え、できるだけ多くの子どもたちの支援を行ってほしい。
		基本的な生活習慣の大切さを理解させ、健康で丈夫な体作りに対する意識改善を図る(保健・食育)	「睡眠指導」「栄養指導」を行い、より良い生活習慣の定着と意識向上に取り組む。	【教員アンケート】 「基本的な生活習慣の大切さについて話すとともに、給食指導の中でバランス良く食べる大切さを伝えている。」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「自分の健康のために早寝早起きを心がけたり、給食を残さず食べようとしていたりしている。」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率95%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率86%⇒B ・授業などで、保健指導や食育指導を行っている。毎日給食給前で栄養教諭が食育メッセージを掲示している。	○教員アンケート結果 肯定率95%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率88%⇒B ・授業で保健指導や食育指導を行った。Teamsの会議機能を使って、中学校区内で一斉に給食指導を行った。栄養教諭が毎日給食給前に食育メッセージを掲示した。	○	学校の毎日の取り組みと保護者の協力もあり、アレルギー対応ができていると聞いた。大変だと思うが、これからは、安心して安全で子どもたちが楽しみにしている給食を提供してほしい。
体育が楽しいと感じられる児童を増やす。(体育)	体育授業において、ほめる・認める・励ますなどの肯定的な言葉がけをするとともに、子ども同士が声を掛け合う時間を確保する。	【教員アンケート】 「体育において、取り組み態度や子ども同士の関わりを積極的に価値づけようとした」という教員が、90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 「体育の授業で、友だちや先生に褒められたり、がんばりや成長を認められたりした」という子どもが、90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率100%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率81%⇒B ・体育の授業や体育参観の練習などで、褒められたり、がんばりや成長を認められたり、がんばりや成長を認められたりするような場面づくりを行っている。	○教員アンケート結果 肯定率100%⇒A 子どもアンケート結果 肯定率84%⇒B ・体育の授業や体育参観の練習などで、褒められたり、がんばりや成長を認められたり、がんばりや成長を認められたりするような場面づくりを行っている。	○	休み時間に運動場で遊べることを楽しみにしている子どもたちも多い。体育参観では、子どもたちががんばっている様子を見ることができ、とてもよかった。これからは、子どもたちのがんばりを認める取り組みを行ってほしい。		
<p>校長より(年度末)</p> <p>授業参観において、児童の姿や教職員の取組を見ていただいた教職員が工夫を凝らしながら授業づくりに取り組んでいる点にご理解をいただいた。現在行っている取り組みをさらにすすめていくとともに、ご指摘いただいた以下の課題点についても次年度以降改善に向けて取り組んでいく</p> <p>■ ICT(パソコン)活用だけでなく、読書指導、鉛筆を使っての文字を書く指導</p> <p>■ 体を動かす活動・体力向上に関する取組</p> <p>また、次年度は学校改革として4年生以上の教科担任制、3年生以上の算数での習熟度別授業を取り入れ、児童の学力向上・教員の働き方改革を推し進めていく予定である。これまでに研究を進めてきた対話について、各クラス・各学年の児童同士の対話だけでなく、1年生から6年生までの縦割り活動を1年間で複数回行い、子どもの育成に努める。</p>								<p>学校関係者評価者から(年度末)</p> <p>学校の先生が忙しく、大変な状況にあることは、ニュース等でも報道されている。今回、授業を参観し、1年生から6年生まで、先生方がそれぞれ工夫を凝らしながら授業を行っている様子を見ることができた。</p> <p>特に、昨年度も感じたことだが、パソコンを活用した授業が以前より増えていることに改めて驚いた。アルファベットがまだ十分にわからない低学年の児童でも、自分でログインできるよう、先生方が丁寧に指導していることを大変ありがたく感じた。</p> <p>パソコンを使う学習は今後ますます重要になると思うが、一方で、パソコンだけに偏るのではなく、本を読むことや、えんぴつを使って文字を書く指導も、今後大切にしてほしい。</p> <p>また、体を動かすことが好きで、休み時間に運動場で遊ぶことを楽しみにしている子どもが多いと聞いている。体育の授業だけでなく、休み時間にも体を動かす、体力向上につながるような取り組みがあれば、さらによいと感じた。</p> <p>久世小学校の先生方は、日々子どもたちのために頑張っている。今後も引き続き、子どもたちの健やかな成長のために尽力してほしい。</p>		